

恵子

もうすぐ5年…あの瞬間から。2011年3月11日14時46分18秒。
東北で起こった観測史上最大のそれは、私たちの記憶から消えることはないだろう。
地震、津波、原発事故…
震災から刻一刻と悪化していく状況。
2011年3月11日21時23分に菅直人総理大臣から1号機の半径3km以内の住民に避難命令が下された。
動揺して逃げ惑う人、途方に暮れる人の心は無視されて…
無感情に進んでいく時間の中で、ただただ人間は無力だった。
情報が錯綜する中で、福島にはもう住めなくなるという恐怖心を煽られ、
1人、2人…と福島を離れていった。
そんな中で、福島の外から福島をポジティブにしようと立ち上がった1人の男がいた。

「会って話を聞きたい」その思いを手紙に託した

その人の名は島田総一郎^{注1)}。日本テレビで番組制作に携わっている、
20年続いている、日本テレビの長寿番組「ザ！鉄腕！DASH！！」(DASH)^{注2)}のプロデューサーである。
「ザ！鉄腕！DASH！！」がバラエティでありながら、福島とかかわり続けているわけを、福島のために奮闘している真意を、どうしても直接聞きたい…その一心で私は手紙を書いて日本テレビに送った。

私を突き動かしたのは、DASHに対する熱い思いがあったからだ。
DASH村が浪江町にあったことを知った私は、DASHに起こったことを決して他人事とは思えなかった。
幼稚園の時代から慣れ親しんでいたDASH村に対しては、第二の故郷のような感覚をもっていたから。
そう感じていたのは私だけじゃないはず。全国の家族たちはみんな、村を、村の仲間を心配した。

願いが通じた！会って話が聞ける

逃げずに、飾らずに、「ザ！鉄腕！DASH！！」は視聴者と向き合った。
除染の様子も映し出し、バラエティとしては型破りにドキュメンタリーを放送した「ザ！鉄腕！DASH！！」。
背景にどんな思いがあったのだろう。その決断や真意について聞かせてほしい。

福島とかかわりを持ち続けていながら、そこになぜか悲壮感はなくポジティブである。
福島県民でない彼らが福島を元気にしようとする、その思いを聞かせてほしい。

私の願いが通じた。
島田さんからメールの返信をいただき、私は彼に会うために日本テレビに向かった。

“念願であった島田さんから直接話を聞くことができる”私の胸は高なった。

以下、島田さんの取材内容である。

東日本大震災、その日



(飯舘村の除染作業の様子。撮影:前場理恵子)

2011年3月11日。福島 DASH 村ではいつものごとくロケが進んでいた。

東京で翌日の番組収録の準備を進めていた島田さんは、地震に驚き、まず村のスタッフに連絡を取った。電話の向こうは思いのほか落ち着いており、「すごく揺れたが崖以外は大丈夫、ただ道はひび割れているため、村で待機をしている」との報告を受けた。

その頃、近くに住む町民らも村の母屋に集まっていた。

DASH 村は彼らにとって日頃から憩いの場であり、“住民の手作り集会所”のような役割を担っていたからだ。テレビもない村には入ってくる情報なんてない。

彼らには事の重大さが伝わるすべもなく、のんびりしていたという。

その後、避難命令とともに村を追われ、震災後は初めての放送日となる日曜日(3月13日)がやってきた。村のことも放送できず、津波を連想させるという理由から DASH 海岸の企画も放送できない中で、島田さんが選んだのは、差し障りのない過去のネタを流すことだった。

『バラエティは平和の象徴』だから」

「バラエティは辛いことがあったときに、楽しいひとときを求めて観るもの。そして有事には報道番組に時間を割かなければならないから、バラエティは平和な時にしか放送できない」と語る彼は、DASH 村が福島にあるという事実を視聴者に伝えるかどうかという決断を迫られていた。

全て明かして。その先にあったジレンマ。

彼が出した決断は“全て明かすこと”

原発事故のために村に立ち入れない事実を伝え、「いつか戻る」「取り戻す」という熱いメッセージを付け加えた。それ以降、被災地を勇気付ける企画や、JAXA の協力のもと、ひまわりで除染する実験もした。

DASH 村のために、視聴者のために、「次々にチャレンジを重ねる」ことが番組の使命になった。

しかしそんな彼の思いとは裏腹に、視聴者は離れていった。

視聴者はバラエティーに楽しいことを求めているから…。

テレビマンの島田さんには端からわかっていたことだ。

そうとはいえ、伝えるべき時に必要なことを伝えることもテレビの役目。

島田さんは福島から逃げなかった。

震災から 1 年後に直面した温度差

震災から 1 年後の 2012 年 3 月 11 日、DASH で「震災から立ち上がった人たちの姿」をスペシャルで放送し、“死の土地ではない”という思いを込めて視聴者に伝えた。

出演者である TOKIO はこの日、福島から 5 人で生放送を行った。

福島県内での視聴率は約 30%と高かったけれど、関東地区での視聴率は 13.6%。

決して低い数字ではないが、福島での視聴率とは大きな差が開いた。

このことから震災からはや 1 年で福島内外にできた温度差は目に見える形で現れた。

「東京の人は、見たくないものには目を塞ぐ人が圧倒的に多い」

「福島の温度と東京の温度は違う」

「人はなかなか理解しあえない。東京と福島は日常生活での接点が少ないし、フィルターを通して入ってくる福島しか知らない。だからこそ“知ろう”と思いやりをもって接すれば、素敵な関係になれるのに」

島田さんには生きる場所が 2 つある。

東京での不自由な生活と、DASH 村の一員としての生活。

どちらも生活の拠点である彼のなかには双方の思いを理解することができるのだろう。

DASH が伝えるメッセージ

島田さんが感じる福島の思いとは、「今までやってきたものが失われた寂しさ」だという。

だから、福島人は「生きがい探し」をしている。

後ろ向きなんかじゃない。被害者なんかじゃない。

実際に、浪江町の農業指導者、三瓶明雄さん（故人）^{注3)}は 後ろ向きなことは言わなかったそうだ。

明雄さんは「福島の前向きな象徴」だった。

「ならば村に戻れない間に日本全国の農家からいろいろなことを学ぼう」島田さんは新しい企画に取り掛かった。

明雄さんの口癖は「まだまだ」であった。

お涙頂戴のような、同情心を利用して福島のことを扱うのではなく、

DASH は「まだまだ」の“なにくそ精神”を貫く。

「まだまだ」の精神は今も DASH に引き継がれている。

島田さんも TOKIO も心に福島を留め続けている。

福島で作り続けている「DASH 村」ブランドの新男米に加え、新しい企画「世界一うまいラーメンつくれるか?！」

でも、「春よ恋」（TOKIO がこの企画で栽培し、麺の材料に使用したラーメン用の小麦）を福島で育てた。

栽培地として福島県を選んだのには以下のような思いが込められていた。

「今まで福島という土地で農業をやってきた。福島でのノウハウを知っているから。よく知っているから、過ごしやすい良い所だから、“福島”なんだ」

「TOKIO が腰を据えて農業をやるのは、福島でしかあり得ない」

「正義感ではなく当たり前のこと」と島田さんは言い放った。

これがバラエティにおける福島の伝え方。

食べ物を作り、紹介し、ロケをすることで福島を日常化させること。

視聴者が「福島のことを知ろう」と肩に力を入れるのではなく、自然と見られるように手助けをすること。

この人たちは前に進んでいるよ、粹な感じで頑張っているよ、
「前向きな県民性、前向きな自分たちを発信したい。」
…島田さんはこの言葉で締めくくった。

～私も、誰でも、ポジティブ福島～

島田さんのように直接的な関わり方ができるわけではないけれど、島田さんからヒントをもらった。

自分にできることから始めて、途中でやめない！離れない！
私は2012年6月に福島で、被災地の思いについて単独街頭取材した経験がある。
福島駅周辺で43人の人に声をかけ、40人の人が応えてくれた。
約8割の人がメディアに期待を寄せていた。
風化を恐れる声や、復興の話題や明るい話題を求める声を、見ず知らずの私に聞かせてくれた。
意外と多かった、前向きなニュースを伝えてほしいという声。

「被災地には実際に行ってみないと分からないこともある」とその時脳裏に響いた言葉が私を奮い立たせた。
その後、仮設住宅へボランティアに出向き、原発に一番近い小学校の子供達と街のPR映像作りをした。
福島で出会った、たくさんの明るい人たちに逆に元気づけられた。

この人たちは前に進んでいるよ、粹な感じで頑張っているよ。
島田さんの言う通りである。

それがわかったのは“知りたい”と思ったから。
被災地に関心を持ち、その気持ちを忘れずに自分のペースで“継続”すればいい。

私の目に映る「ポジティブ福島」はまず「知ろうとする」ところから始まる。
知ろうとして、一歩踏み出して実際に「知る」。
そして知ったら、また一歩踏み出して、自分の心が感じるままに「行動してみる」。
そして無理はしなくても時間を見つけて、自分のペースで「継続する」。
行うべきことは、この「知ろうとする」「知る」「行動してみる」「継続する」のたった4つだ。
このサイクルは決して特別なことではない。
仕事も勉強も趣味も、私たちは普段からこのサイクルを踏んで日々を過ごしているのだから。

被災地に関わろうとすることも特別なことだと思わなくていい。
無理なく自分のペースで生活の中に組みこむことが「ポジティブ福島」の背中を押す力になるのではないだろうか。

島田さんが教えてくれたこと。それは、“知ろう”と思いやりをもって接すれば、素敵な関係になれること。

“DASH 村で培った経験を生かしてニッポンの農家さんをお手伝い” するという「出張 DASH 村」、5 月 8 日放送(2016 年)では、TOKIO のメンバーが熊本県の農家に出向き新タマネギの収穫のお手伝いをしていた。この日の放送では、たまたま熊本地震発生 の 3 日前に収録された「出張 DASH 村」の様子に加え、今まで取材でお世話になった熊本県の農家さんたちの現状と元気なメッセージが伝えられた。そして、九州新幹線や九州自動車道が徐々に復旧していることも…。

福島 の “ポジティブ” を応援してきた男たちの精神は福島にとどまらず、日本中を前向きにしようとしている。DASH が起こす “ポジティブの風” は、被災地のみならず、新社会人となった私の心にも届いた。

注釈一覧

注 1

島田さんはこんな人…

島田総一郎さんは日本テレビ放送網「ザ！鉄腕！DASH！！」のプロデューサーである。彼は自分の功績をあまりひけらかさない“粋な男”であり、番組制作にかける情熱や行動力には驚かされる。タレントと共に防護服を着て、立ち入り禁止になった村を再生させようとしたり、24 時間テレビのチャリティーマラソンでは TOKIO のリーダー城島茂とともに走る姿がテレビの端に映っていたりするほどだ。彼の話ぶりからわかったことは、彼と TOKIO は「男の絆」で結ばれており、プロデューサーとタレントという枠を超越したなにかが存在していることだ。私が彼を知ったのは、日本テレビの深夜番組「ウラカタ」(2014 年 3 月 9 日放送回)であったが、“まっすぐ”に DASH を語る彼を見た私は、たった 15 分で彼の虜になってしまった。

注 2

「ザ！鉄腕！DASH！！」とは… DASH 村って…

「ザ！鉄腕！DASH！！」
1997 年 10 月から日本テレビの月曜深夜の 30 分番組としてスタート。
1998 年 4 月から現在の日曜日 19:00～19:58 の枠で放送されている。
2014 年のバラエティ番組平均年間視聴率は No. 1。
ジャニーズ事務所の人気アイドルグループ TOKIO が人間水切り石など身体を張り挑戦する企画で有名になった。

「DASH 村」
手作りのソーラーカーで日本一周をする企画とならんで、巨大プロジェクトだったのが「DASH 村」。
「日本地図に DASH の文字を載せたい」というコンセプトで 2000 年 6 月 4 日から始まった人気企画。
TOKIO が地元の人たちの協力を得て、手つかずの自然の中で母屋を建て、水を引き、農作物を作り、器から炭作りに至るまで“完全自給自足”の村を作り上げていった。
場所は公開されていなかったが、震災の影響を受けて 2011 年 4 月 24 日放送分で「福島県双葉郡浪江町津島地区」に村が存在する事を公表。村が計画的避難地域に指定されたため、今もお立ち入り禁止が続いている。
震災直後に JAXA と協力してひまわりの種による除染を試みたものの、解決には至らなかった。
TOKIO は DASH 村での経験を生かし、「出張 DASH 村」として日本全国の農家の手伝いをしている。
そして、福島を「DASH 村」を忘れないためにも、再開の日が来ることを諦めずに、現在、福島市の吾妻連峰の麓に位置する盆地で「DASH 村」ブランドの新男米を作りつづけている。
2015 年 12 月 5 日の放送分では 2 年連続の特 A ランクを獲得した。

「DASH 村」ファンの視聴者に衝撃が走った。

注 3

三瓶明雄さんとは・・・

DASH 村にはなくてはならない人物。農業指導者。

浪江町に暮らしており、当時農業のいろはをまったく知らなかった TOKIO のメンバーに一から指導を行った。野菜や米作りにとどまらず、母屋の建設や動物の世話に至るまで、DASH 村の開拓や維持を熱心に手ほどきした。彼は「国民のおじいちゃん」とも言える存在だった。

2014 年 6 月 6 日に 84 歳で亡くなった折には、多くの視聴者がまるで家族を失ったように悲しんだという。